

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己とのかかわりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図ると共に、「生きる力」や「豊かな心」を育み、社会に貢献できる人材を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究活動を行う過程で物事の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 特色ある多様な学びの中で、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 一人ひとりの個性や能力に応じて実社会や実生活と自己とのかかわりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究活動にコミュニケーション活動を取り入れることで、主体的・協働的に活動に取り組み、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

総合的な探究の時間の学習評価

- (1) 多様な視点から学問を探究する力
- (2) 探究した内容を適切にまとめる力
- (3) 探究した内容を分かりやすく発表できる表現力
- (4) 他グループの発表を聞き、疑問点に気づき、質問できるコミュニケーション力
- (5) 探究した内容から得られる専門知識を生かし、実際に行動に移せる実践力

生徒の実態

- (1) 職員や来校者へすすんで挨拶をする生徒や、職員の仕事を積極的に手伝う姿がみられるなど、礼儀正しい生徒が多い。
- (2) 物静かで落ち着いた生徒が多いが、心身に悩みを抱えている生徒も少なからずみられる。
- (3) 卒業後の進路に対する意識がやや低く、自発的な学習に取り組む姿勢に、個人差がみられる。
- (4) 将来の職業選択に対する意識が、やや低い傾向がみられる。

生徒の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする生徒への指導

- (1) 進路先を決められずにいる生徒に対しては個別指導で対応する。
- (2) グループディスカッションが苦手な生徒に対して配慮する。
- (3) 過剰な支援とならないよう、生徒の自立を促す支援を心がける。

目指す生徒の姿

- (1) 心身ともに健康であり、他人を思いやる心、協調性やコミュニケーション能力をもった生徒を育てる。
- (2) 学力の向上を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養を身に付け、それを活用できる能力を養う。
- (3) キャリア教育を充実させ、望ましい職業観や勤労観及び社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

○普通科

- (1) 総合的な探究の時間（道徳）
  - ア 職業観と社会に貢献しようとする気持ち
  - イ 自ら探究しようとする姿勢
- (2) 探究活動
  - ア 探究活動を通し進路を明確化する
  - イ 課題等をまとめ、発表する力の醸成

○商業に関する学科・商業科・会計ビジネス科・情報処理科

- (1) 総合的な探究の時間（道徳）は普通科と同様
- (2) 資格取得に向けた取り組み
  - ア 進路の明確化および職業観の醸成
  - イ スキルアップを目指し、現代の社会課題に取り組む姿勢
- (3) 課題研究（3学年）
  - ア 自分が興味関心を持った事柄に対し、主体的に調べ探究しようとする姿勢
  - イ 課題等をまとめ、発表する力の醸成

学習活動、指導方法等

- (1) 毎時間、対話的かつ主体的な学びを充実させた授業の実施。
- (2) 大学や専門機関と常に連携し、大学教員の出前授業やキャリア教育等の実施。
- (3) 地域社会と連携した探究活動（課題解決学習）への取り組み。
- (4) 資格取得に向けた学習や課外等の充実。
- (5) 自分たちの探究活動や課題研究を校内発表することに加え、他校の研究発表会などを見学する機会を設ける。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- (1) 大学との連携（茨城大学や県立医療大学）
- (2) 地域の博物館や図書館等知的財産を有する研究施設や専門施設との連携
- (3) 金銭的な支援（三菱みらい育成財団の助成2年目）
- (4) 保護者の協力と理解
- (5) 卒業生の協力と理解